

アルギン酸に魅せられて

株式会社キミカ 技術開発部リーダー もり ゆいか 森 結花



1 はじめに（株式会社キミカとアルギン酸）

弊社は、現在国内で唯一、アルギン酸の製造販売をおこなっている会社です。1941年に千葉県君津郡（現在の富津市）で創業しました。海岸に打ち上げられた海藻を利用し、日本で初めてアルギン酸の工業生産に成功しました。アルギン酸は食物繊維の一種で、天然の海藻から抽出しています。現在、原料の海藻はチリから輸入しています。それも、生きた海藻を刈り取るのではなく、海岸に打ち上げられた海藻のみを使用するなど、環境に優しい製法でアルギン酸を製造しています。製造したアルギン酸は、食品や練り歯磨き、医薬品など、皆さんの身近なところに使っています。

2 入社の動機と職場環境

私は理科が好きで、物心ついた頃から理科を仕事につなげたいと思っていました。研究や開発をやりたいという思いで就職活動を進めていく中で、キミカを知りました。アルギン酸のことは、大学院生のときに行った小学生向けの理科実験教室の「人工イクラづくり」で知りました。しかし、キミカを知ることで、人工イクラをつくることしかできないと思っていたアルギン酸が、実はいろいろな分野に使われていることを知りました。「こんなに面白い素材を扱っているメーカーは他にはないだろうな」、「こういう珍しい素材をプロフェッショナルに扱っている会社で研究開発ができれば面白いだろうな」と思い志望しました。

職場では、先輩も後輩などの年齢に関係なく、コミュニケーションがとりやすいです。上司にも意見は伺いやすい環境で、非常に恵まれていると思います。新しいことに挑戦することが多いので、先輩からだけではなく、後輩からも意見を聞きながら前に進めていくことが多いです。みんなで自分の得意なところを持ち寄って何かを成し遂げていくということは、弊社がずっとやってきたことであり、本当に大事なことだと思います。

3 私の仕事

私は、アルギン酸を食品に使ってどのような効果が得られるかという応用開発のような業務を行っています。アルギン酸は、食品に用いられることが多く、例えば、パンに使うとふんわりと潰れにくいパンができたり、麺に使うとしっかりと食感を与えてくれたりします。アルギン酸にしかない特徴を活かして、食品の美味しさをもっとサポートすることができないか、検証しています。

今まで見えてこなかった効果が得られると、やりがいを感じます。お客様のところに伺って困りごとをご相談いただいた時に、得られた効果や情報などをお伝えすることでお客様に感謝されることがあります。そんなときは、やった甲斐があったなと思うし、今まで積み重ねてきた知識をちゃんと自分のものにしてきた意味があったなと感じます。

壁にはしょっちゅうぶつかります。すごく落ち込みますが、周りの人からの助けがあったり、ちょっと負けず嫌いな部分も出てきた



りして、何としてでも乗り越えよう、見返してやろうと考えています。先輩にアドバイスをもらったり、自分の理想とする人の姿から学んで改善していったりすることで、乗り越えています。

4 技術開発部リーダーとして

自身で開発業務を行いながら、食品開発を行うメンバーの業務を割り振ることや、新しい人がメンバーになってもできる限り理解できるように、自分だけが知っている知識や設備の扱い方などをできる限り資料化、共有しています。

日頃から気を配っていることは、ラボのメンバーが業務を回しやすいように気を付けたり、自分が後輩として言われる立場だったらどういう風に言われるのが良いかということ意識しながら、意見や注意をします。

私は、二級パン製造技能士の資格を取りました。大手の製パンメーカーさんと商談する機会がありますが、この資格を取得したことで、知識と技能のある技能士が試験をしているという弊社の姿勢を示すことができますし、今まで以上に説得力をもって説明することができるようになりました。

初めてリーダーという役職をいただいたときは、びっくりしました。思わず、「何で私がリーダーになるのですか？」と聞いてしまったほどです。しかし、上司が選んでくださったので、責任を持って取り組んでいます。

5 私のリケジョ（理系女子）へのあゆみ

小学生の時は、何にでも興味があり、興味が沸くとそれに集中してしまって、親に呼ばれても気づかないこともしばしばありました。小さい頃は親に科学館や愛知万博などに連れて行ってもらいました。当時は、メタンハイドレートという燃える氷が話題になっており、

私は、燃えないはずの氷が燃えるという現象が魔法みたいだなって思って感動すると同時に、魔法みたいな力は科学というものを知れば分かるんだという思いも起こり、理科が好きになりました。勉強はそんなに得意ではなかったのですが、理科の授業で実験があるとすごく喜んで積極的に取り組んでいました。学校の図書室にある本や図鑑も大好きでした。教科書に載っている写真を眺めるのも好きでした。他の教科のテストが全然だめでも、理科のテストだけはいい点数をとっていました。たぶん、好きなことはとことんやるけれど、やりたくないことは避けて通ってきていたのかもしれません。その頃から、将来は理科に関わることを職業にしたいと思っていました。具体的にどのような職業があるのかは知らず、研究者になりたいぐらいの気持ちでした。

中学校時代は、放課後に理科の実験教室を開放していろいろなことを教えてくれる先生がいて刺激になりました。自分で手を動かして検証することが好きなので、研究の道に進みたいと思っていました。

6 千葉県の教職員の皆様へ

大人になればなるほど、学校の先生の業務は大変だなと感じています。

私は、「理科が好き」という私の思いを活かしてくださった学校の環境にすごく感謝しています。同じように、これからも子供たちが興味をもったものに対して、「いいね！」と言って応援してくださるような環境づくりをしていただけたら、すごく嬉しいです。よろしくお願いします。

神奈川県出身
大学院修了後、株式会社キミカに入社
小学5年生用副読本「マンガで学ぶ わたしたちの海～これまでも これからも とともに生きる～」にもインタビュー記事が掲載されています。